

# 東北地方(被災地)及び関東圏でのガソリン・軽油等の供給確保 — 緊急の供給確保措置と拡大輸送ルートの設定 —

4月7日(木)  
10:00時時点

民間備蓄義務日数:70日→45日

石油事業者による石油製品の在庫の取り崩し、事業者間・地域間の相互融通を円滑化することにより、我が国全体としての石油の効率的な供給を確保するため、民間備蓄義務を追加的に22日分引き下げ、これまでの引き下げ(3日分)と合わせ、合計25日分を引き下げ。

## <本日のポイント>

- ・石油連盟による約2000本の灯軽油の無償提供については4/6までに合計165本搬入済。
- ・3/27～4/6に計9市町村に「仮設ミニSS」を設置し累計で約6100に対して給油を実施。

## 東北地方(被災地)向け

### タンクローリーを抜本的に追加投入(300台増)

- 285台を東北に追加投入済み。4月上旬までに約300台まで確保見通し。

### 西日本の製油所からのガソリン等の東北地方への大量転送

- 日量3.8万klの供給余力は確保  
※現在の東北地方への供給:約3万kl/日
- 製油所の稼働率:フル稼働を確保
- 輸出停止分:当面約70万kl
- 緊急輸入:3～4月で50万kl強

### 太平洋側の油槽所(塩竈油槽所・八戸油槽所)の早期の機能回復

- (塩竈油槽所)4/6までに39船(計約9.7万kl)着棧済。
- (八戸油槽所)4/5までに14船(計約3.6万kl)着棧済。
- (JX仙台製油所)4/4までにドラム缶で灯軽油約1000本を出荷。

### 緊急重点SSの指定と重点供給

- 東北6県の緊急重点(207件)のうち、3/19～4/4に延べ2468のSSに対して重点供給を実施。
- 4/5現在、東北地方にある元売系列の3070のSSのうち、91%にあたる2809のSSが稼働中。
- 元売会社がSSの営業状況について、ホームページで公開。

### 福島原発周辺地域への支援

- 福島県より、3月に4度、周辺地域住民向けのガソリン等(計約1110kl)の支援要請あり。3月中に全量を供給済。4/3に追加支援要請(計約400kl)あり。4/6中までに約100klを供給予定。

### 鉄道による輸送ルートの確保

- 3/21以降、根岸→盛岡へガソリン等(約1300kl/日)を輸送。
- 3/21以降、宇都宮へガソリン等(約6000kl/日)を輸送し、この一部を東北地域(福島県等)に搬送。
- 4/1以降、根岸→郡山へのガソリン等の出荷量が増量(約1200kl)。

### 被災地からの要請への対応状況

- 4/5までに、病院等約1450件の要請に対し、約1380件に対応し、約1.53万klのガソリン・軽油等を搬送済み。

### 特に供給不足が著しい地域への重点供給対策 (ドラム缶による大量輸送等)

- 被災者向けに3/27に約4000本(灯油、軽油)を自衛隊に搬入済。
- 石油連盟による約2000本の灯軽油の無償提供については、4/4より出荷を開始。岩手県、宮城県、福島県にそれぞれ650本ずつ搬入予定。4/6までに合計165本搬入済。

### LPガス対策(東北地方(被災地)向け)

- 病院、避難所の炊き出し用等にボンベ等の無償提供を実施(6800人分)。
- カセットコンロ約2.4万台、カセットボンベ約13万本を被災地に無償提供。
- LPガス国家備蓄を活用すべく、4万トンの放出(4/4～7)。

### 「仮設ミニSS」の設置

- 3/27～4/6に計9市町村に「仮設ミニSS」を設置し、累計で約6100台に対して給油を実施。

## 関東圏向け

3/21から、関東圏向けの出荷量は平年並みに回復

○製品在庫を関東圏に転送

- 3/25以降3日間程度で6万kl程度を転送済。

○関東圏の製品在庫の取り崩し ○事業者間連携による円滑な供給体制  
緊急重点SSの指定と重点供給(上記と同様)

- 2製油所(東燃・川崎、極東石油・千葉)は運転再開済み。JX・根岸も、3/21に運転開始。

- 北関東への供給の正常化。3/21以降、宇都宮・高崎への鉄道出荷が正常化(ガソリン等合計約1.1万kl/日を輸送)。

- 4/5現在、関東地方にある元売系列の6661のSSのうち、99%にあたる6607のSSが稼働中。